

そよ風通信

創刊号

2019年9月発行

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8 TEL/0568-88-0811 FAX/0568-88-0839 <https://www.pref.aichi.jp/addc>



2019.3.16 センター開所式の様子

「そよ風通信」創刊に寄せて

愛知県医療療育総合センター総長
安藤 久實



このたび、愛知県医療療育総合センターの広報誌「そよ風通信」を発行する運びとなりました。これまでは「コロニーだより」及び「中央病院だより」から様々な情報発信をして参りましたが、今後は本誌を通じて患者さんや利用者の皆さん、そして地域の皆さんへより多くの情報をお届けいたします。

心身の発達に障害のある方々が明るく幸せな生活を営むことができるよう、障害児者のための総合的な福祉総合施設として全国に先駆けて設置された愛知県心身障害者コロニーは、平成31年3月に「愛知県医療療育総合センター」となって新たな門出をしました。

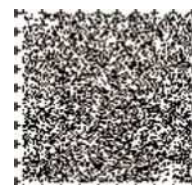
コロニー開設から50年が経過する中で、障害者福祉のあり方が「施設福祉」から「地域福祉」へと大きく転換されました。一方、少子化が進行しているにもかかわらず、低出生体重児の出生数増加に伴う医療的ケア児は年々増加しており、また、小児への虐待も増加して大きな社会問題となっています。そのような時代背景の中において、愛知県医療療育総合センターは、児童精神科、遺伝診療科、小児歯科、小児外科、小児整形外科、また療育支援部門や発達障害研究所など、他の障害児者施設や福祉施設にはない特徴と、熱き情熱と技を合わせ持った多くの人材を有しており、「障害児者の医療と療育、地域生活支援および障害研究の拠点センター」としての役割を今まで以上に果たす事が期待されています。

愛知県医療療育総合センターでは、コロニーが50年にわたり培ってきたノウハウを生かしつつ、県内の障害児者に関係する機関や施設と連携をとりながら、障害児者とそのご家族の期待に応えるべく、職員一同一丸となって頑張る所存であります。皆様には今後共更なるご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、この「そよ風通信」が皆さんとの架け橋となれるよう、より一層充実した紙面づくりを目指していきたいと思いますので、ご意見・ご要望等ございましたらお寄せいただければ幸いです。

Contents

創刊に寄せて — 総長あいさつ —	1
病院長あいさつ・新任医師紹介・医療情報システム導入	2・3
療育支援センターのご案内	4・5
研究所長あいさつ・新任研究員紹介	6・7
Topics	8



中央病院からのご挨拶

愛知県医療療育総合センター副総長兼中央病院長
吉田 太



心身障害者コロニーとして長らく県民の皆様が親しまれてきた当施設は、平成31年3月より「愛知県医療療育総合センター」として全面開所いたしました。それに伴い、中央病院は「愛知県医療療育総合センター中央病院」として建物も一新され、組織も改編されたところです。障害のある方への高度で専門的な医療の提供、かつ広域的な支援に特化し、地域で生活する障害児者の皆さんが必要に応じて専門的な医療・療育を受けられる拠点施設であることには変わりはありません。

一方で、従来の紙カルテから全面的に電子カルテシステムの導入、病院医事課部門のセンター運用部への統合、こばと学園の病院組織一体化、精神科関連の外来および入院部門が本館棟3階に集約されるなど、特に運用面では大きな変革がありました。今年の4月末で平成の時代が終わり、5月1日からは「令和元年」となりましたが、期せずして「コロニー」も「新センター」へと生まれ変わる事になった訳です。

組織が新しくなる際には従来の皮から脱皮する事が求められ、それに伴う痛みもあります。利用者の皆様から「コロニーは新しくなったが、建物はいいのにサービスが低下した」とお叱りの言葉を受けずに職員一同頑張っているところです。

実際には、例えば「駐車場が遠くなってスペースも足りない」「外来フロアが広がったのはいいが看護師さんの顔が見え辛くなった」「携帯電話が1階外来で通じにくい」等々、様々な声を頂いております。駐車場に関しては、今後センターのⅢ期工事として旧建物の取り壊し、病院前に新たな大駐車場の整備が予定されており、今しばらくはご不便をかける事と思っております。何卒ご理解、ご協力賜れば幸いに存じます。

当院の何よりの財産は「職員一人一人が障害のある方に寄り添って支えていこうとする心意気」にあると思っております。合理的、先進的な医療の質を保ちつつ「温かな、前向きなモチベーション」がキープできるような組織を目指し、患者の皆さんに「頼りにされる病院」であり続けたいと願っております。

今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。

新任医師紹介

Hello! Doctor

今年度中央病院に着任した3名です。
よろしくお願いします。



整形外科



門野 泉

この度、6年ぶりにリハビリテーション室長として赴任いたしました。前職では名古屋大学リハビリテーション科にて診療・教育に勤しみ、整形外科診療以外にも得意とする分野のバリエーションを増やして帰って参りました。この6年半の間も非常勤医師として週1回勤務しておりました。

ので、コロニーから全く離れたことはなかったはずなのですが、新センターへの再編、引っ越し、電子カルテ導入と新しいことばかりで、全く新しい病院に赴任したような感覚に陥ることもあります。新センターのリハビリテーション科の運営を円滑に進め、障害児者診療への更なる貢献を目指したいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

～システム導入でここが変わった！～

医療情報システム導入から6か月

中央病院では、平成31年3月より「医療情報システム(電子カルテ)」を導入しました。システム導入後半年が経ちましたが、新しいシステムの導入によって何がどう変わったのかをお伝えします。

時間予約枠の単位を変更しました

電子カルテ導入に伴い、予約時間枠を1時間単位から30分単位に変更したことで、特定の時間帯に予約が集中しなくなり、待ち時間の短縮につながるシステムにしました。

総合受付が機動的に

総合受付のカウンターが旧病院に比べて広くなりましたので、新患、再来、会計など受付の位置をあえて固定化せず、例えば、混雑する時間帯は、再来受付を対応する人数を増やしたり、カウンターにある電子カルテの端末が全て使用中の場合でも医事事務室内の端末で対応するなど、医事スタッフによる機動的な対応ができるようになりました。

質の高い医療の実施

これまでは、カルテなど紙ベースの情報が主体でしたが、電子カルテ導入後は、いつでも端末の画面上で同じ診療情報を確認できるようになったため、医師、看護師など各職種のスタッフ間の情報共有や伝達がよりスムーズに行うことができるようになり、医療の質の向上につながりました。



県産材を使った温かみのあるカウンター



外来ロビーでは職員が常駐し、患者さんへのご案内や対応をしています

今後も、外来診療がよりスムーズに行われ、患者サービスが向上するように、スタッフ一同努めてまいります。

児童精神科



山田 信之

はじめまして。この度、2019年4月から当院子どものこころ科に着任しました(前職場:刈谷病院)。児童精神科医として成長できるように、また、子どもたちの楽しい生活に少しでも貢献できるように日々研鑽を続けます。よろしく申し上げます。

1968年(S43年)11月、青森市生まれの50歳です。

居住地:青森市→名古屋市→東京都目黒区→松本市→十和田市→郡山市→茅ヶ崎市→京都市→小浜市→刈谷市→春日井市(現在)

趣味:海外旅行(バックパッカーで世界40か国)。

野球観戦(阪神タイガースファン歴35年)。

映画鑑賞(年100本以上)。

読書、音楽鑑賞、昭和プロレス観戦、ロードバイク、サウナ、ラーメン・ビール・ワイン好き。

麻酔科



伊藤 秀和

出身地は奥三河の東栄町です。4月より麻酔科の責任者として赴任しました。センター開設のタイミングで赴任となり、真新しい手術室と機器に囲まれて仕事できることに喜びを感じています。

私のモットーは「安全で継続可能な周術期管理」

です。昨今の我が国は、短期的に結果が見込まれる分野に予算と人材、そして現場の意識までもが集中しており、私はその風潮に危うさを感じています。収益、効率化、予算削減の名目のもと、当センターで手術を受ける患者様の安全が脅かされることがないように、正確な周術期管理と手術室の環境整備に努めます。

療育支援センターのご案内

療育支援センターは、医療療育総合センターの地域療育支援部門として、旧コロニーはるひ台学園（福祉型障害児入所施設）の機能に加え、地域療育の充実に向けた広域的で専門性の高い支援を実施するため、この3月から新たな一歩を踏み出しました。

医療療育総合センターの三本柱は「医療」「療育」「研究」ですが、ここではその中の療育部門を支える療育支援センターについて紹介します。

療育支援センターは、次のとおり、主に在宅支援を担当する地域支援課と、入所支援を担当する児童療育支援課から構成されています。

地域支援課 <<本館棟1階>>

地域支援課は、旧コロニーの各部署から専門的知識や技術を有する職員が集結し、結成された課です。所属職員の担当する業務は多岐に渡りますが、私たちは、当センターをご利用される皆様お一人おひとりに寄り添いながら心をひとつにして、皆様のよりよい暮らしの実現に向け、日々の研鑽に努めて参ります。センターご利用の際は、どうかお気軽にお立ち寄りください。

それでは、地域支援課の3つのグループを紹介します。

心身障害者支援グループ

私たちのグループでは、

- ① 中央病院こばと棟利用に関するご相談
 - ② 退院後の生活に関するご相談（看護相談）
 - ③ 中央病院の短期入所・レスパイトについてのご相談
 - ④ その他、在宅生活でのお困り事に関するご相談
- 等の業務を行っています。お気軽にお声がけください。
よろしく申し上げます。



家庭での生活を
支援します

笑顔を忘れず
対応します



児童精神支援グループ

児童精神支援グループは、主な業務として

- ① 主に子どものこころ科に通院・入院している（お子様のご）ご家族からの相談
 - ② 地域の医療関係者を対象とした医療研修事業
 - ③ 実習生・ボランティアの受け入れ等を担当しています。
- 皆様よろしく申し上げます。



発達障害・療育支援グループ

私たち「発達障害・療育支援グループ」では、障害の理解を深め、支援の輪を広げるために、「障害児等療育支援事業」「あいち発達障害者支援センター」「親子療育の家」の3つの事業を行っています。

具体的には、

- ① 支援者向けの研修
 - ② ご本人やご家族(支援者)を対象とした相談
 - ③ 県内の事業所や保育園、学校等に直接伺っての助言や事例検討
 - ④ 障害がある方が地域で安心して生活するための体制整備に向けた取り組み
 - ⑤ 親子療育の家の運営
- 以上が主な事業となっております。
お気軽にお声がけください。

理解と支援を
広がります!



児童療育支援課 (はるひの家 (福祉型障害児入所施設、旧はるひ台学園) <<本館棟2階>>

はるひの家では、お子さんの特性に適した個別支援計画を作成し、基本的な生活能力と社会生活の向上を図っています。新しくなった「はるひの家」の室内や療育活動の一部を紹介します。

My Room



はるひの家では小規模(5~7人)なユニット方式で生活しています。
1人1人に個室があります。 🏠

Play Room



プレイルームがあります。ボールプールや大きなビーズクッション、コクーンやマットがあり、余暇時間に体を動かしたり、リラックスすることができます。 ● ● ●

あさの会 ☀️



幼児は、「あさの会」で日付や天気を確認し、絵本の読み聞かせや手遊びをします。集団の活動や、集中して取り組むことを学んでいきます。 📖



📎 こども会議

レクリエーションや長期休暇中の活動内容など、自分たちのやりたいことを「こども会議」で話し合います。司会や書記を自分たちで分担して務めます。ここでの意見をもとに計画を立てます。

発達障害研究所からのご挨拶

発達障害研究所長
中山 敦雄

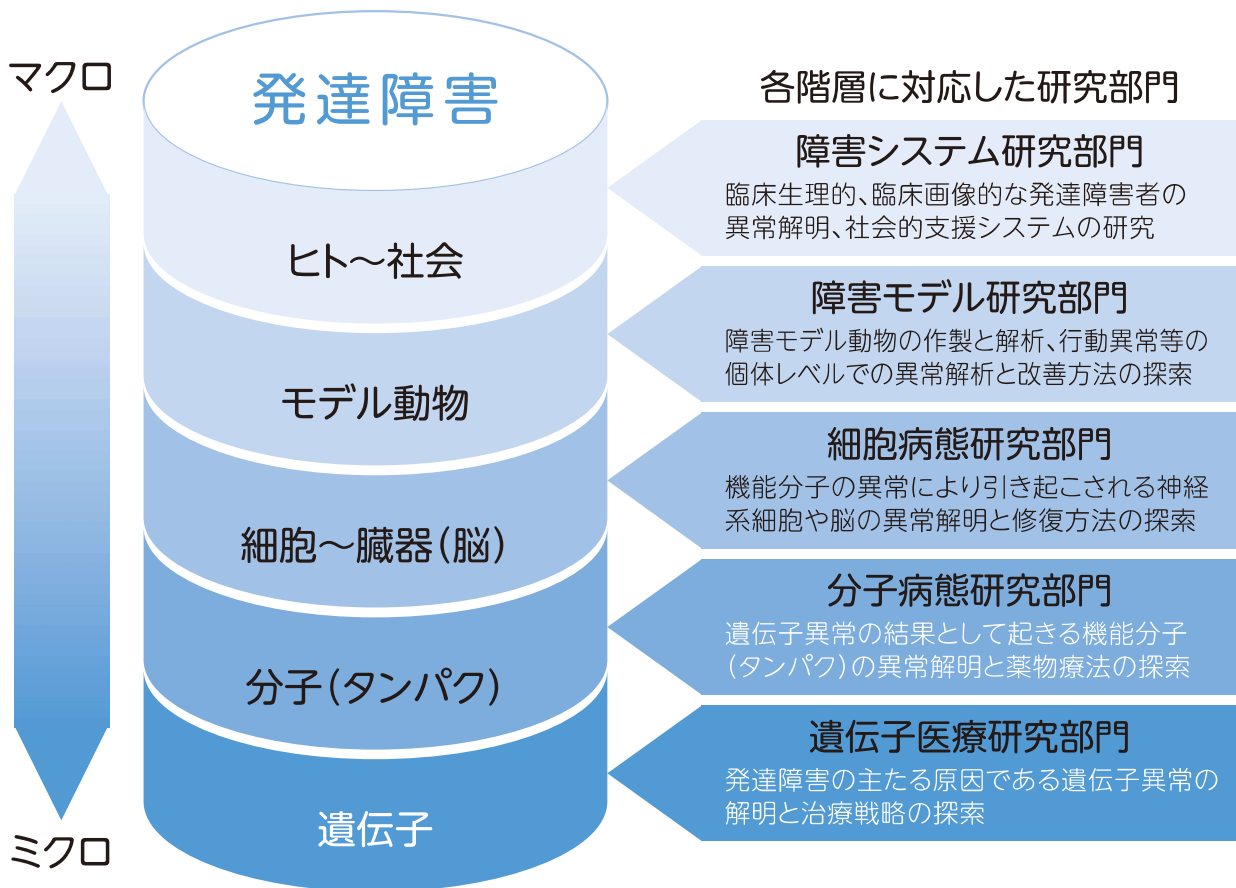


心身障害者コロニーから医療療育総合センターへの再編に伴い、発達研究所もこれまでの地上5階、地下1階の独立した建物から、新センター本館棟5階に引っ越しました。スペースとして手狭になったことは否めませんが、部品がなく修理不能な空調や、老朽化配管からの水漏れ、ガス漏れに悩まされることもなくなり、ようやく快適な環境で研究に励むことができるようになりました。

再編では研究所の組織再編も実施され、これまでの7学部（遺伝学部、神経制御学部、発生障害学部、周生期学部、病理学部、機能発達学部、教育福祉学部）から5研究部門に体制を変更しました（下図参照）。

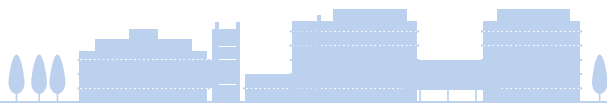
発達障害研究所の体制

発達障害を微視的（ミクロ）レベルから巨視的（マクロ）レベルまで五つの階層に分け、それぞれに対応した五つの研究部門において研究を進めます。



遺伝子医療研究部門には遺伝子の本態であるゲノムの解析や遺伝子の入れ物である染色体の解析の専門家が、分子病態研究部門には生物の主要な構成分子であるタンパク質の機能解析の専門家が、細胞病態研究部門には細胞および組織培養の専門家が、障害モデル研究部門にはモデル動物であるマウスの解析の専門家が、そして障害システム研究部門にはヒトから得られる臨床生理学的データ解析の専門家と障害者支援システムの専門家がおり、それぞれの研究部門の特色に応じた研究を進めています。

研究は難しくとっつきにくい印象を持たれますが、研究所職員は皆、気さくで親切です。利用者の皆さまや、他部門の職員の方々も5階の研究所を気軽に訪れて、疑問を投げかけていただければと思います。



発達障害研究所 新任研究員紹介

障害システム研究部門

高次脳機能研究室室長
木田 哲夫

TETSUO KIDA



4月1日付で発達障害研究所障害システム研究部門高次脳機能研究室の室長に着任しました、木田哲夫です。乾幸二部長の下、発達障害児・者の高次脳機能、特に注意や意識の病態生理を解明する研究を立ち上げようとしております。これまでは脳波や脳磁図を始めとする非侵襲的脳機能評価法を用いて、認知・運動・情動等の様々な脳機能を検証してきました。本研究所では、これらの手法を用いた発達障害研究に取り組む機会を与えて頂き、大変感謝しております。

これといって趣味というほどのものはないのですが、ここ数年はメダカ飼育がマイブームです。昨年、実家から15匹ほどの幹之(みゆき)メダカを分けてもらったのが始まりです。現在、産卵期まただ中で、20匹ほどの稚魚が産まれました。青白く光るメダカたちが優雅に泳ぐ姿を見ていると、とても心が癒されます。

遺伝子医療研究部部長
林 深

SHIN HAYASHI



生まれは岩手で育ちは栃木、大学が東京でそのあとの仕事は関東近辺なので、このたびご縁のできた愛知県に至るまで南へ西へと旅をしてきたこととなります。この途上で小児科医として働きはじめ、遺伝医学の研究に関わるようになり、ついでに北米はコネチカットに洋行して神経科学の基礎を学んできました。いささか落ち着きのない長旅の理由を大きく言えばいわゆる遺伝性疾患、ヒトが生命の薄明から携えてきたもののなかに原因の存するさまざまですがたかたちの理由をなんとか探り当ててみたいということになりましょうか。生命科学の隆盛著しい当節ともなればたちどころに明らかになるとみえてさにあらず、生命の複雑はそう簡単に私ごときの浅知恵を近寄せはくれません。

勤まるだろうかと不安を抱えて春日の丘を登りきた五月の半ば、頂には無類に涼しい風が吹いていて、研究所の皆さんに病院の皆さん、わけても利用者の皆さんやそのご家族にお目にかかり、ここでよい仕事をしなければバチが当たるなと思いました。至らぬところ多々あるかと存じますが何卒ご海容に、今後ともよろしくお願いいたします。

トピックス Topics

7/28

こばと夏祭り開催!

医療療育総合センターになって最初のこばと夏祭りを開催しました。こばと棟以外の病棟の患者さんも参加できるように、午前と午後の2部制にし、みんなで楽しみました。



風船釣り、コロコロゲームで景品ゲット!保護者会からもジュースと綿菓子の寄付を頂き、皆さん笑顔です^^



夏祭りと言えば盆踊り!「掘って掘ってまた掘って♪」炭坑節を保護者、利用者、職員で踊りました。また、高校生ボランティアが揃いのハッピーで祭りを盛り上げてくれました。



のど自慢では皆さんが美声を披露してくれました。若い患者さんは新しいカラオケがなかったのでアカペラで!



職員が扮した獅子舞いで、センターの患者さんや利用者の皆さんの無病息災を願ってくれました。ご利益はいかに?



8/7・22

高校生1日看護体験研修

中央病院にて「高校生1日看護体験研修」を開催しました。普段は学生服の高校生の皆さんも、この日は看護師の制服に身を包み、看護の現場を体験。

体験研修に参加しての感想を寄せてくれましたので一部紹介します。



看護師の仕事を間近で見て肌で感じる事ができた貴重な1日となりました。患者さんに寄り添い、ケアをしていた姿がとてもかっこよく、看護師になりたいという気持ちが強くなりました。



看護師の方々が優しくサポートしてくださって、とても助かりました。利用者の方ともしっかりコミュニケーションをとれるように自分から話しかけに行く力をつけていきたいと思いました。



最初は少し緊張したけど、すぐに子供たちがなついてくれてなじむことができました。一緒にアイロンビーズをした時に「完成したね!」とハイタッチをしてくれたり、「今日は楽しかったよ!」と伝えてくれてやがりがいを感じました。子供と触れ合う看護の仕事もいいなと思いました。